



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R I 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー
大野 清一

- 会 長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副 会 長 天野 公史
- 副 会 長 鴻 義久
- 幹 事 植田 清司
- 副 幹 事 朝日 達夫
- 会 計 渡 邊 淳
- 副 会 計 白井 康夫
- S A A 小山市 康
- 副 S A A 長井 章
- 副 S A A 青柳 紀
- クラブ会報 竹山 洋



写真提供 小池将夫会員

- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン
- 創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第27週報 No. 1868 2015年(平成27年) 1月16日 第1868回例会記録 1月23日発行

司 会 植田 清司 幹事

◎ 故 山田富雄会員 ご夫人より葬儀の御礼ご挨拶

点 鐘 山田 正憲 会長

斉 唱 「我等の生業」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)



志として、多額に頂きました。ニコニコへ入れさせていただきます。

ゲスト紹介 三遊亭好太郎 様 (ゲストスピーカー)
山田 貢子 様 (故 山田富雄会員ご夫人)

ビジター紹介 神奈川県 R.C 金野 克佐 様

本日〈1月23日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「それでこそロータリー」
 - ◆ 献 立 ポークカレー
 - ◆ 卓 話 「昨シーズンを振り返って・今シーズンに向けて」
元横浜ベイスターズ投手・現横浜DeNAベイスターズ投手コーチ
川村 丈夫 様
(紹介者 佐藤 勝彦 会員)
- << 本日の B G M >> 「荒城の月、月の砂漠、花 外」

会長報告 山田 正憲 会長

- ・1月10日、神奈川県消防出初式に出席し、感謝状を頂いて参りました。

幹事報告 植田 清司 幹事

- ・本日、例会終了後に1月度定例理事会を開催致します。

出席報告

会員総数	55名	(33+22)名	
出席会員数	42名	(29+13)名	
出席率	91.30%		
ゲスト	2名	ビジター	1名
前回補正後	93.88%	前々回補正後	90.20%

スマイルボックス 青柳 紀 副SAA

神奈川IRC 金野克佐様 本日もお世話になります。

山田正憲君 三遊亭好太郎師匠、本日のお話し、楽しみにしています。

富居利貞君 今年もよろしくお祈りします。山本芳弘会員にはご無理なお願いをしました。

月山 勇君 青柳先輩、先日はお世話になりました。

河野明光君 青柳さんから強い要求がありましたので。

江森国一君 特にないのですが、青柳さんと目が合ったので・・・。

森永 健君 山田会長、先日はご馳走様でした。次回はもっと良いものをお願いします。

佐藤勝彦君 好太郎師匠、本日はお忙しい中、ありがとうございます。卓話の落語、楽しみにしています。

茂木知子さん ~怖いタクシードライバーの話~年末の夜、同窓会の帰りにタクシーに乗りました。「綱島街道の大曽根までお願いします」と告げました。ドライバーさんが「同窓会ですか？いいですね」と話し掛けてきました。その後ドライバーさんは、ゴホゴホと咳き込みながら、「この頃街並みが変わってしまった。間違えると頭が真っ白になってパニックになる。パソコンもうまく使えない」という話を繰り返し、繰り返します。そして、車が浦島ヶ丘の坂を下りた途端、「お客さん、綱島です」と言い、降ろされそうになりました。私は「ここは綱島ではありません。菊名記念病院の坂を下り、綱島街道に行ってください」と言いました。ドライバーさんは咳き込みながら同じ話を繰り返しています。大倉山記念病院の信号の手前で、「次の次の信号を左折して下さい」と言うと、なんと次の信号で右折のウインカーを出して右折しようとしてました。私はビックリして「次の信号左折です」と叫びました。やっと家に辿り

着きましたが話はまだ続きます。しばらくして犬の散歩をするために家を出ました。タクシーはまだ停まっており、中でドライバーさんが地図で悪戦苦闘していました。

青柳 紀君 先週、渡邊会計さんからニコニコが予算にほど遠いとのショックな報告がありましたので！先週は102,000円、今日は31,500円でした。

* 故 山田富雄会員のご夫人より多額の志を頂きました。

1月16日	10件	131,500円
本年度累計		1,352,920円

卓話

「落語～笑う門には福来る～」

落語家 三遊亭好太郎 様
(紹介者 佐藤 勝彦 会員)



この度は、神奈川県東ロータリークラブの新年会にお声掛け頂き、ありがとうございます。

人間にとって大事なことは、それは信頼と健康だと思います。その中で健康は、何よりも笑いに続きます。落語は正に、その中の一つの手助けだと思っております。

まだ落語家になる前に、初めて生で落語を聞いたのは、昭和49年の春、私がまだ中学一年生の学校寄宿でした。そして、その時の人が今の師匠、三遊亭好楽でありました。

人生にはいくつかのターニングポイントがあると思いますが、それが私の今のターニングポイントでした。

昭和60年11月に落語家になり、今年は30周年の節目であります。

人のご縁とは不思議なものですが、本日、そのご縁があって初春の例会にて一席出来まことは感謝の一言に尽きます。

今日は新年にふさわしく、お酒の話で盛り上がればと思っております。

今年には阪神大震災から20年目を迎えます。東日本大震災の時もそうでしたが、ボランティア活動にて現地を巡って思ったのですが、あんなにひどいことになっていても、いつしか人は笑顔を求めているのですね。

落語には不思議な力があるようです。今年も明けたばかりですが、笑いという落語の力で全国を飛び回ります。

その第一歩が神奈川東ロータリークラブであることに、重ねて感謝申し上げます。

今年一年、素晴らしい年でありますように心よりお祈り申し上げます。

神奈川東ロータリークラブと掛けて満塁ホームラン2本と解く。その心は発展（8点）間違いないでしょう。

ロータリーニュース

部族間の対立がない平和な世界を目指して

ケニア北部にある小さな遊牧民コミュニティではここ数十年間、互いへの不信感、乏しい資源、家畜の窃盗といった問題が引き金となって、武力間での暴力が絶え間なく続いています。

この状況を改善させようと、ロータリー奨学生のモニカ・ケニユアさんと双子の妹のジェーン・ワンジルさんが、争いをなくすために部族間の子どもたちの友情を培うプログラム、「Children Peace Initiative Kenya (C P I)」を立ち上げました。

2014年5月、米国・サンディエゴとケニア・ナイロビのロータリアンが協力したグローバル補助金を利用し、ケニア北部でも最も危険な地域の一つとされるサンプル郡のパラゴイで、子ども向けの平和キャンプを実施。2年前に牛泥棒の殺害事件があり、40人の警察が捜査を行っている地域でもあります。

それぞれ3つの学校に通うトゥルカナ族とサンプル族の子どもたちが、教師と共に参加したこの平和キャンプ。5日間の日程で、お互いをより良く知り、友情を培うための活動が行われました。キャンプの最後には、参加した子どもたちの全員が、ほかの部族の子どもたちと仲良くなりたいという思いを強くしました。

C P Iのボランティアは、マルサビット郡近郊でも同じような行事を開催。違うコミュニティに住む子どもたちが友情を育んだ結果、互いの家族の友情が深まりました。ケニユアさんによれば、家族同士でヤギを交換したケースもあったそうです。

C P Iによる活動が始まる前には、武力による解決法しかなかったこの地域。話し合いには、武装した交渉人を介したこともありましたが。その意味でこの平和キャンプは、この地域での暴力の発生を低下させる一助となっています。

「子どもたちはこれまで、紛争解決に直接的に関わったことはありませんでした」とケニユアさん。

「その役目は成人男性に任されてきましたが、私たちのプログラムによって、コミュニティ間の平和に子どもたちが直接貢献できるようになり、親にもよい影響が与えられます。さらには、コミュニティ全体が平和に向かうよう手助けできるようになったんです」

ロータリー奨学金に後押しされて

ケニユアさんがロータリーと初めて関係を持ったのは2011年ことでした。その頃ケニユアさんは、米国のサンディエゴ大学で平和と司法の修士号を取得するための奨学金の最終候補者の一人でしたが、生活費を賄う資金源が全くありませんでした。奨学金を受けるかどうかの最終決断を迫られたちょうどその頃、以前から入会しようと考えていたロータリークラブの例会に参加しました。

そこで出会ったのが、ある非営利組織を通じてケニアを訪れていたキャロル・カースさん。カースさんの母親、ジャニス・カースさんは、サンディエゴ地域のロータリアンで、その18ヶ月前にロータリーの職業研修プロジェクトの一環でケニアを訪れていました。

ジャニスさんは当時をこう振り返ります。

「キャロルがケニアに旅立ったとき、何かの役に立つかもしれないと、私の名刺を持たせたんです。私たちの地区はちょうど、ケニユアさんが希望していたサンディエゴ大の学部への留学生のために奨学金を提供していました。そこで、地区の関係者に直接説明して、最終的に彼女に奨学金を授与することが決まったのです。その時私が、ホストカウンセラーになると立候補しました」

その後、留学中に実の親子のように親しくなったカースさんとケニユアさん。留学がそろそろ終わりに近づくころ、カースさんはナイロビ・ロータリークラブの知り合いに連絡し、ケニユアさんの活動への支援を要請したことがきっかけとなり、今回の平和キャンプをサポートするグローバル補助金の申請へとつながりました。

今では、C P Iの活動を耳にした多くのコミュニティが支援を求めるように。各平和キャンプの最後に、参加した地域のリーダーたちが、このプログラムを必要とするほかの村を紹介します。

ロータリー奨学金によってリーダーシップのスキルを磨き、活動へのサポートを幅広く募ることができるようになったとケニユアさん。今では、ロータリー会員を通じて知り合ったというサンディエゴの非営利団体「Interactions for Peace」とパートナーシップを組んでいます。また、サンディエゴ大学もケニユアさんの団体をサポートしています。

ケニユアさんは次のように話します。

「ロータリーのおかげで、可能性と機会がより一層広がりました。これまで出会った方々は、引き続きよき助言者として、私のキャリア形成に重要な存在となっています。教育と平和に力を注ぐロータリーは、世界の平和と国際理解にとって大切な財産だと思います」



10月にロータリー世界本部を訪れたモニカ・ケニユアさん（右）と妹のジェーン・ワンジルさん

ポリオフリー記念の行事でギネス記録を樹立

2014年にポリオフリー（ポリオのない状態）を達成したインド。この偉業を達成するまでには、多くのロータリアンの献身と尽力がありました。

そのインドでこの度、40,000人のロータリー会員が集まり、人による世界最大の国旗をつくる行事が開催されました。チェンナイとタミルナドゥのロータリアンが実施したこの行事は、インドでのポリオフリー達成を記念するものとして行われ、ギネス世界記録を樹立しました。この行事に参加したゲイリー C. K. ホアン R I 会長は次のように話します。

「私が特に感心したのは、ローターアクター、インターアクター、ロータリアンと、ロータリーに関わるすべての人が参加していたことです。彼らがそれぞれ、学校の同級生、友達、同僚を連れてきてくれました。これは、インドにとってポリオフリーであることがどれだけ重要かを示していると思います」

地元の広大な催し物会場に集まった参加者一人ひとりが手にプラカードを掲げ、それをつなぎ合わせてインドの国旗をつくり、人による世界最大の国旗としてギネス記録達成が認められました。これは昨年、Sports Club of Lahoreという団体が主催し、30,000人が集まってつくったパキスタン国旗の記録を上回るものとなりました。

インドの国旗をつくって世界記録を樹立した後、インド国旗の中心部（青い部分）のプラカードを掲げていた地元のロータリー会員がそれを裏返し、ロータリーの徽章を形づくりしました。また、「Keep India Polio Free」（インドをこれからもポリオフリーに）というメッセージが書かれた横断幕も掲げられました。行事を主催した第3230地区によれば、参加者以外に約50,000人が大型スクリーンに映し出されたこの催しを見るために集まったということです。

ギネス世界記録の関係者がこれを世界最大の国旗として正式に認めるのに5分以上の時間がかかりましたが、最後の30秒は、参加者全員がお互いにかげ声を出して記録の達成を後押ししたと、ホアン会長は振り返ります。チェンナイの大学に通う Avanthika Iyer さんは、「5分以上もプラカードを掲げているのは大変でしたが、大きな達成感が得られました。そして何より、インドへの愛国心を感じることができました」と話します。

「40,000～50,000人が参加しないと記録が達成できないと聞いたときは、正直、無理ではないかと思っていました」とホアン会長。

「しかし、前日のリハーサルで集まった人の数を見て、これは達成できると確信しました」



人による世界最大の国旗という世界記録樹立のために集まった参加者

ロータリーニュース

ヒマラヤでの家庭排気対策プロジェクト

ヒマラヤ山脈に登ることを何年もあいだ夢見てきたジョージ・バッシュさん（タオス・ミラグロ・ロータリークラブ、米国ニューメキシコ州）は、2001年、64歳で初めてヒマラヤ登山に挑戦し、想像をはるかに超える経験をしました。しかし、厳しい現実も目の当たりにしました。多くの家屋で家庭排気による煙害が起きており、家の中に穴を掘って火を起こす家庭や、家畜の糞を燃料代わりにする家庭がありました。煙に包まれているようだったと話すバッシュさん。「咳や涙がでて、逃げ出したくなった」と振り返ります。

煙害は、健康被害をもたらします。世界保健機関（WHO）の調査によると、2012年、石炭や木材、バイオマス燃料を燃やして調理をし、その家庭排気による大気汚染で430万人の命が奪われました。犠牲者のうち、5歳未満の子どもが半数以上を占め、専門家は、台所で火を焚くことは、1時間に400本のタバコを燃やすようなものだと警告します。

決意とともにヒマラヤを再訪

この状況を何とかするために、バッシュさんは2009年にヒマラヤを再訪しました。

燃焼効率の良い調理用ストーブを設置することで問題を解決できることを知ったバッシュさんは、燃焼効率の良い調理用ストーブの考案者と連絡を取り、ネパールで使用する可能性を検討。そして2010年、48台のストーブを家庭に提供しました。翌年に現地を訪れたバッシュさんは、これらのストーブが好ましい影響を生んでいることを確認し、住民からは、より少ない燃料で手早く調理できるとの声が寄せられています。その後もプロジェクトは続き、今日までに3,000台以上が提供されています。都市部から離れた辺地にはヘリコプターで運び、輸送に数日を要することもあります。ストーブ1台の購入、輸送、設置にかかる費用はわずかに約100ドルです。

ストーブを受け取った家族は、そのお返しとして、地域社会での奉仕活動に参加したり、学校や診療所の備品を購入したりします。地域によっては、利用者にストーブ代のごく一部を支払ってもらい、それを小口融資に充てる工夫も行われています。

このプロジェクトは、さらに多くの支援を必要としています。これまでに、バッシュさんの所属クラブや、ロータリアン個人からの寄付が寄せられているほか、去る2月には、カトマンズ（ネパール）のロータリークラブが加わり、90台が新たに設置されました。

これらの支援を受け、さらに多くの変化をもたらすために意欲を燃やすバッシュさん。

「山間部にはこのストーブを必要とする人びとが大勢おり、みんなに提供できれば素晴らしい変化が生まれるでしょう」

ロータリーニュース

◎次週1月30日（金） 休会

次回《2月6日》の予定

神奈川RC・神奈川東RC合同賀詞交歓会